

最近の県内景気動向

平成14年12月27日
日本銀行水戸事務所

【概況】

雇用・所得環境が厳しい中で、個人消費の一進一退が続いているほか、住宅・公共投資も引き続き不冴えを託っている。この間、企業活動面では、輸出の増勢鈍化等に伴い、生産持ち直しの動きが一服しつつあるほか、設備投資についても慎重な姿勢を崩しておらず、総じて低調に推移している。

【消費】

◎個人消費

11月の大型小売店売上（県内13か店）は、一部店舗のリニューアル効果や販促効果から1年12ヶ月振りに前年を上回った（前年比+0.2%）が、厳しい雇用・所得環境を受けて基調的には低調に推移している。すなわち、一部ブランド品は引き続き堅調ながら、衣料品が婦人物重衣料を中心に低調なほか、12月に入り歳暮・クリスマス商戦も息切れが目立つなど、総じて盛り上がりを欠く展開となっている。

◎11月の乗用車新車登録台数

11月の乗用車新車登録台数（除く営業用乗用車・軽自動車）は、既存車種については大幅な前年水準割れが続いているが、小型車を中心とした新規投入車やモデルチェンジ車の好調に支えられ、全体として持ち直している。もっとも先行きについては、雇用・所得環境が厳しいことなどから、業者間には慎重な見方が少なくない。

◎11月の家電販売

音響関連（コンボ等）やパソコンが低迷しているが、PDP、DVDレコーダーなどデジタル映像関連や白物家電、エアコン等の暖房器具が好調に推移しているため、全体としては引き続き堅調に推移している。こうした動きは12月入り後も継続している。

◎11月のレジャー関連状況

予約状況を見ると、国内旅行は近場の温泉や首都圏（テーマパーク）向けが堅調ながら、遠距離（沖縄、北海道等）が相変わらず振るわない状況。また海外旅行も、欧州、中国向けは好調なもの、北米向けの落込み等から客数が一昨年水準に達しておらず（昨年は米国同時テロに伴う落込み）、この間の低料金化もあって、全般に低調の域を脱していない。なお、12月入り後、足許までの予約状況については、全体として客数、単価とも前年水準割れと

なっている。

【公共・住宅投資】

◎公共工事請負額

公共工事請負額は、国（前年比+76.9%）、公団・事業団（同2.7倍）による原子力関連施設やナノテク関連施設の発注が集中した結果、全体としては4ヶ月振りに増加に転じた。もっとも、県（同▲31.0%）、市町村（同▲14.4%）では、財政面の制約から大幅前年水準割れが続いており、基調としては低調に推移している。

◎11月の新設住宅着工戸数

雇用・所得環境が改善しない中、一部ハウスメーカーの割引キャンペーン等による需要先食いの反動減もみられ、大幅な前年水準割れとなった。

【生産動向】

鉱工業生産・出荷については、一般機械、電気機械等の輸出好調を背景に夏頃まで持ち直し気配が窺われたが、その後、欧米向け輸出の増勢鈍化等に伴い、一部メーカーで操業度を引き下げる動きがみられ始めるなど、一頃に比べ増勢が一服しつつある。この間、在庫は、夏場にかけて低水準で推移していたが、足元における出荷の増勢鈍化により幾分積み上がっている。

【企業倒産】

11月の企業倒産（負債総額10万円以上）は、件数（15件、前年<24件>）、金額（73億円、前年<45億円>）とも、やや落着きをみせている。

茨城県主要経済指標

(前年比、%)

	13年度	14/9	14/10	14/11
大型小売店売上高	▲3.9	▲2.1	▲6.3	0.2
乗用車新車登録台数 [除く軽]	▲3.9	7.4	0.7	6.7
[含む軽]	▲4.6	10.2	▲1.3	4.5
公共工事請負金額	▲8.0	▲9.5	▲1.6	19.1
新設住宅着工戸数	▲0.4	6.0	7.0	▲18.7
[持家]	▲10.9	▲8.1	4.0	▲6.6
産業用電力消費量	▲4.1	7.8	5.6	4.8
[大口電力]	▲4.2	8.6	6.4	5.3
鉱工業指数 [生産]	97.5	101.9	96.1	96.5
鉱工業指数 [出荷]	91.4	100.5	88.4	90.9
鉱工業指数 [在庫]	78.4	79.3	76.2	80.1
有効求人倍率 (倍)	0.63	0.52	0.52	0.54
倒産件数 (件)	235	9	25	15